

特集

守ろう！つなごう！文化財 長野県天然記念物 笠取峠のマツ並木

笠取峠のマツ並木の現状

た。

保存管理計画とは、文化財の持つさまざまな価値を個別に明らかにし、その価値の保存と活用に関する基本的な方針を整理し、保存管理、活用のための基準を定めた計画です。

マツ並木の維持管理

笠取峠のマツ並木を維持するため、保存管理計画に沿って管理を実施します。

・日常的なマツ並木区域内の巡回

・松並木公園内一帯の下草刈り、アカマツ周辺の落葉かき

・松くい虫及びマツモグリカイガラムシ防除のための薬剤散布

・松くい虫防除薬剤
樹幹注入

・枯れたアカマツ、アカマツ育成に支障
な木の伐採

・樹勢回復(タコ壺式
土壌改良)の実施
・後継樹の育成

江戸時代の街道の中で、交通・運輸の面で我が国の重要な街道であった中山道には、徳川幕府の街道政策により、要所に並木が形成されました。

近代以降の開発によって全国の並木が消失していく中で、我が町の「笠取峠のマツ並木」は、アカマツが今でも並木として残り、中山道の昔日のおもかげを私たちに感じさせてくれる貴重な文化財です。

町では、長野県天然記念物笠取峠のマツ並木を将来にわたって保存継承していくための指針として保存管理計画を策定しましたが、地域の皆さんに、さらに親しみや誇りが持てる文化財として認識してもらえよう、保存・管理の状況をお伝えします。



昭和40～50年代のマツ並木



現在の同じ場所(アカマツはない)

保存管理計画の策定

町では、平成22年5月に、各分野における専門的な見識者や地元の方で構成される「笠取峠のマツ並木保存管理計画策定委員会」(委員長:東京工業大学名誉教授 亀山章氏)を設置し、並木を構成するアカマツの生育状況を把握するための現地調査結果および文献資料からマツ並木の歴史的側面を整理しながら、委員会での協議を踏まえ、「笠取峠のマツ並木保存管理計画」を策定しまし

た。

